



なのみ通信

令和3年度 筑前町立東小田小学校 学校通信 6月14日 第5号



働き者の「なのみっ子」

掃除の時間にせっせと廊下をはいてちり集め。「掃除が好き。」と彼の背中が語ります。

こんにちは。

梅雨とはいえ、今週は晴天と真夏日が続き、各地で熱中症の集団発生が報道されました。学校では6月10日(木)と11日(金)に体力テストを行いました。町の体育指導員さんも3名サポートに来てくださいました。子ども達は、50m走、ソフトボール投げ、長座体前屈(座って足をのばし体を前に曲げる)等、みんな汗まみれで顔を真っ赤にチャレンジしました。

◆ 子どもが創る学校 ◆

今朝は、職員が急に休むことになり、代わって朝の会から1時間目にその学級に入りました。子ども達は先生不在を知るや大騒ぎ?ではなく、日直を中心に朝の会を進めていきます。限られた時間で、リコーダー演奏や「ビリーブ」の合唱。さらには古典の暗唱発表にみんなで耳を傾け拍手。「集団の自治能力」の高さ、それを支える「仲間を大事にする心」に胸を打たれたさわやかな朝となりました。この1年の本校の重点目標『子どもが創る学校』の実現へ、これからも子ども達の動きを見守りたいと思います。

◆ 通学路 その十六 ◆

「おじちゃんがやめるなら、私達はほかの学校に行くからね。」
ある子ども達が、見守り隊の方に向けたそんな言葉を知りました。今年で七十八歳を数えるおじちゃんは、毎朝会うすっかり仲良しの彼らに、ある日、次のような話をしました。
「おじちゃんは、そろそろ引退する時期かな。」
彼らは、おじちゃんの表情をじっと見つめます。そして返した言葉が、先ほどの言葉です。

小学校に入学して以来、欠かすことなく自分達を見守り続けるおじちゃん。

「おじちゃんは、今日もそこにいてくれる。」

それは、彼らにとって当たり前のことでした。それが、あの場所におじちゃんがいなくなる…。おじちゃんの言葉に、彼らの胸は深い寂しさに襲われたのでした。

おじちゃんの見守り活動は、今年で二十三年目を迎えました。

「あの頃、小学一年生だった泣き虫さんが、今は二十九歳になり遠くでお母さんになって暮らしています。」

と懐かく語ります。そして、子ども達のあの言葉は今もおじちゃんを励ましています。

おじちゃんは、今日もあの言葉を胸に通学路に立ちます。

彼らは、今日もいつもの道を通り、いつもどおりおじちゃんと笑顔で言葉を交わし学校へ向かいます。

今までと違うのは、それが当たり前ではないことを彼らが知っていることです。

